

ミカン生育情報

千葉県
平成 27 年 12 月号

平成 27 年 11 月の気象

平成 27 年 11 月の半旬別気象は表 1 に示した。平均気温は、第 1 及び第 6 半旬が平年より下回ったが、第 2～第 5 半旬は平年より上回った。月平均は 14.2℃で、平年より 0.9℃、前年より 0.4℃高かった。

降水量は、第 1 及び第 6 半旬が平年より下回ったが、第 2～第 5 半旬は平年を上回った。月合計は 237mm で、平年の 165%、前年の 354%であった。

日照時間は、第 1 及び第 6 半旬が平年を上回ったが、第 2～第 5 半旬は下回った。月合計は 125 時間で、平年の 87%、前年の 96%であった。

表 1 平成 27 年 11 月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	14.5	15.4	16.6	19	20	21	34	24	15
2	16.8	14.9	15.8	42	35	4	16	24	8
3	14.4	13.9	13.9	85	19	1	12	23	32
4	16.0	12.3	11.0	37	25	14	18	23	30
5	13.2	11.6	12.6	40	21	5	12	24	25
6	10.2	11.5	13.1	14	25	24	32	25	21
平均/計	14.2	13.3	13.8	237	144	67	125	144	130

普通温州の果実品質

着色は平年よりも遅い地点が多かった。糖度は三芳地区の「大津 4 号」が高かった。酸度は全ての調査地で平年を下回り、平均値は平年より 0.17%低かった。甘味比は全ての調査地で平年より高く、平均値は平年よりも 2.1 高かった。果肉歩合は 11 月の降雨と高温で多くの地点で浮皮が発生し、全ての調査地で平年より低く、平均値は平年より 1.4%低かった。

表 2 普通温州の果実品質（平成 27 年 11 月 26 日収穫、翌日調査）

品 種	調査地	着色程度		糖度(Brix)		酸度(%)		甘味比		果肉歩合(%)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
大津 4 号	三芳地区	8.0	8.1	11.1	10.1	0.76	0.89	14.6	11.6	74.2	75.5
	千倉地区	7.5	8.8	9.7	10.5	0.88	0.98	11.0	10.9	73.5	75.9
	暖地園研	7.9	8.0	10.2	10.1	0.78	0.93	13.0	11.1	73.8	75.1
青島温州	三芳地区	7.6	7.5	9.6	9.2	0.77	0.96	12.5	9.8	73.6	74.6
	千倉地区	7.7	8.2	9.9	10.0	0.79	0.99	12.6	10.3	72.3	74.3
	暖地園研	7.0	7.7	9.6	9.7	0.73	0.93	13.1	10.6	75.1	75.8
平均		7.6	8.1	10.0	9.9	0.78	0.95	12.8	10.7	73.8	75.2

注) 平年値は平成 7～26 年の平均値、甘味比＝糖度／酸度

果実の生育

果実の生育を表3に示した。本年は表年であることに加え、夏季の過度な少雨など肥大に悪影響のある要因も重なり、「川野夏橙」以外について果実の大きさは平年よりも小さい傾向であった。10月に入り降水が少なく果実品質にとっては良い気象であったが、11月の高温と多雨で浮皮が発生した。

暖地園芸研究所内では12月に入り、急にカラスの飛来が多くなった。一部色づきの良い中晩柑と普通温州に鳥獣による被害が出ているが、11月中にヒヨドリやカラスの飛来が少なかったことから「興津早生」での被害は少なかった。

秋口の多雨、11月の多雨により、果実腐敗がやや多く、落果が多い傾向であった。落果果実の一部からは疫病菌が検出され、カビ類による腐敗果実もみられた。また、所内の「興津早生」においても10月下旬に殺菌剤を散布したが多少落果が見られた。

表3 果実の生育（平成27年11月26日収穫、翌日調査）

種類・品種	調査地	横径 (cm)		縦径 (cm)	
大津4号	三芳地区	7.2	(97)	5.0	(99)
	千倉地区	7.2	(96)	4.5	(92)
	暖地園研	7.1	(93)	4.5	(87)
青島温州	三芳地区	7.1	(96)	4.6	(89)
	千倉地区	7.0	(95)	4.5	(90)
	暖地園研	7.2	(95)	4.5	(88)
川野夏橙	暖地園研	10.0	(105)	7.8	(103)
平均*	普通温州	7.1	(95)	4.6	(91)

注) () の数字は平年値（平成7～26年の平均）を100とした比数

但し、川野夏橙は12月1日樹上で調査した

* 普通温州：大津4号、青島温州の3調査地の平均

12月の栽培管理

マシン油乳剤の散布 カイガラムシ類とミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤（97%）の60～80倍液を散布する。果実収穫後の12～3月の内、厳寒期を避け暖かい日に実施する。雨が降った後、樹皮が完全に乾いていない時に散布すると樹への影響が少ない。樹勢の弱い樹では散布を避ける。なお、ミカンハダニに対しては、寒害を受けやすい園地や着花量が少ない園地では4～5月に100～200倍液を散布する。防除にあたっては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

防寒対策 気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。寒風を防ぐためには防風垣や防風ネットを設置する。冷気のたまりやすい場所は下枝を切り冷気を逃がす。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>